

文化を再認識し 地域知の共同創出をめざす

大学文化情報学部准教授
(文化情報学部研究主任・文化遺産情報科学調査研究センター所長)

つむらひろおみ
津村宏臣

大学の知的・人的資源の社会還元は、現在、理工系や政経系学部と行政・産業界の間を中心に促進されています。その一方で、歴史や文化などを扱う人文系学部では、その必然への認識が、教員も学生も及んでいないことが少なくありません。文化情報学部では、大学内の文化遺産情報科学調査研究センターと協力し、文化や歴史という「地域の知」と密接に結びつく研究成果を社会還元する試みを実践しています。

現在、地方・地域の活性化が盛んに喧伝され、また多くの試みも実践されています。観光の側面では、新たに参加体験型のツーリズムにシーズを見出し、地域の価値の再開発に挑もうとする地域もあります。文化遺産情報科学調査研究センターでは、2012年から香川県小豆島や兵庫県淡路島を中心に、瀬戸内海の「海洋民の知と技術のクロスカルチャジャンクション」をキーワードに、調査研究

とそれらの結果を「文化ツーリズム」として実践（国際会議のプレツアーとしても実施）してきました。今、こうした研究・還元活動に、文化情報学部の学生達が参加し、その中心となった企画が稼働しつつあります。

文化情報学部が設置する「ジョイント・リサーチ」科目の中には、瀬戸内海島嶼部における地域知の再発見とこれを中核とする地域の



学生による民家での聞き取り調査（淡路島）

人々を中心にしたツーリズム企画の協力を得て開講されるクラスもあります。このクラスでは毎年何度も現地に入り、地域の人々と語り合い、学期末には報告会として、各業界団体の審査員を交えた企画審議を行っています。1年に1件程度ですが、実際に運用される企画も出始めています。次はどんな大学発の地域知発見ツーリズムが実践されるか、楽しみな演習科目です。



企画審議会後のグループディスカッション
(テレビ局ディレクター、ツアー会社社長、地域イベント代表、NPO法人理事、府議会議員、商工会事務局長、新聞記者、町長など審査員とともに)

同志社フェアin仙台 新島襄ゆかりの地で開催

大学学長室校友課

新島襄が初代校長を務めた東華学校の開校130周年を記念し、創立記念日である6月17日に「同志社フェアin仙台」が開催された。フェアは、同志社大学主催、同志社校友会共催、同志社校友会北海道・東北ブロック及び宮城県支部協力のもと開催され、地域交流イベントでは河北新報社の後援が実現。梅雨期の中、幸いにも爽快な晴天に恵まれ、一般・校友など300名を超える来場があった。はじめに東華学校遺址碑、碑前祭が行われた後、TKPガーデンシティ仙台にて地域交流イベント、交流レセプションが開催された。地域交流イベントは、「東華学校を語る」をテーマとしたパネルディスカッションから始まり、一力雅彦 河北新報社代表取締役社長、佐々木哲夫 学校法人東北学院院長、菅野正道 仙台市博物館主幹学芸普及室長をパネリストに迎え、同志社大学神学部部长 石川立教授がコーディネ

ネーターを務めた。その後、同志社大学マンドリンクラブによるミニコンサートが実施された。「Doshisha College Song」を含む計5曲を披露し、万雷の拍手の中で終わった。交流レセプションでは、110名の校友が全国から駆けつけた。長谷川正治同志社校友会副会長及び同志社英学校を卒業後に東華学校で教鞭をとった片桐清治氏の末裔である片桐牧雄氏の挨拶があり、阿部兼明同志社校友会宮城県支部支部長の乾杯の発声で懇親会がスタートした。後半には、同志社大学マンドリンクラブの演奏が再び校友を魅了した。会の最後には、児玉正之 同志社校友会副会長による挨拶から豊原洋治同志社校友会副会長による恒例の「Doshisha College Song」への続や、惜しまれながらも盛会は終宴を迎えた。なお、翌日18日には新島襄ゆかりの地ツアーも実施され、約35名の校友が東北学院デフォレスト館

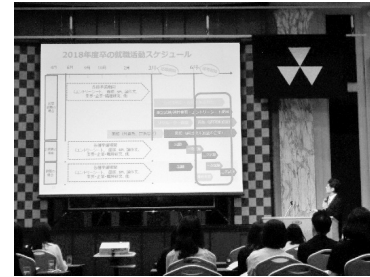


及び仙台北教会を見学。仙台北教会では、小西望牧師の司会のもと同志社大学神学部部长石川立教授による奨励及び讃美歌斉唱があり、仙台のキリスト教伝道に尽力した新島やデフォレストに思いを馳せながら、見学ツアーは終了した。

女子大学広報部広報室広報課

在学生保護者および卒業生を対象に、6月17日(土)東京(グラウンドプリンス新高輪・参加者87名)、6月18日(日)名古屋(AANAクラウンプラザホテル グランコート名古屋・参加者66名)、7月22日(土)広島(シエラトングラランドホテル広島・参加者32名)、7月23日(日)熊本(ホテル日航熊本・参加者25名)の4会場で開催しました。

各会場とも就職説明会、大学の近況報告、小崎眞生活科学部人間生活学科教授による講演「同志社教育の源流をたずねて」自由、良心、愛」を行いました。講演後は参加者による懇親ティーパーティーを催し、テーブル対抗の同志社女子大学三択クイズでは相談して回



就職説明会



小崎教授による講演会



懇親ティーパーティー

答を選び盛り上がっていました。参加者から、講演に対して「小崎先生の熱い志が伝わってきました。」「開学の理念や同志社教育、良心について深く学ぶことができました。」などといった感想が聞かれました。また、「なごやかに楽しく過ごすことができた。」「おいしいお菓子とお茶をいただきながらの懇親会で、様々な人と交流できる貴重な場となった。」「クイズ大会はテーブルでのコミュニケーションを図るのに非常に良い企画だった。」「娘を通じて保護者として同志社

女子大学に同志として関わっている感覚を持てた。」といった感想が寄せられました。7月23日(日)に実施した熊本会場は、2016年に開催する予定でしたが、熊本地震の影響で開催を中止し、今年度実施することができました。講演会の終わりに宗教部長でもある小崎眞教授による、熊本地震および熊本会場開催直前に発生した九州北部豪雨災害の被災者の方と被災地への祈りが捧げられ、参加者も共に祈りました。

中1の最後に「英語でプレゼンテーション」はできるのか

みながわしょうご
中学校・高等学校教諭 皆川祥吾

2013年度から同志社中学校英語科では、「Think Act Learn in English」というテーマを掲げています。これは、同志社中学校3年間の英語教育により「英語で考え、英語を使って行動し、英語で学ぶ」人に育つようにとの想いが込められています。この順番には意味があり、特にThinkは「答えを教員側が提示するのではなく、まず考える」という意図があります。そこで、筆者が担当した2016年度中学1年生修了時の目標は「英語で3分程度のプレゼンテーションができること」としました。

この「英語でプレゼンテーション」の内容は、地理の授業で触れた「少しマイナーな国」をiPadでプレゼンテーションアプリ「Keynote」を使って発表することとしました。

まず最初にクラス全員を図書メディアセンターに集め、オリエンテーションを行いました。その後生徒たちは、Free Writing(自由英作文)でプレゼンテーションの原稿を書いたり、授業の中で

Keynoteの使い方を学んだりして、1ヶ月ほどの準備期間を経た後、発表に臨みました。

当初は中学1年生で英語のプレゼンテーションができるのかと懸念しましたが、生徒たちの学習能力には目を見張るものがあり、例えばKeynoteの使用に際しては、瞬く間に画像やテキストの挿入方法を習得していました。

今回の評価基準にはVoice ControlやEye Contact、Body Languageを取り入れたことで、生徒たちもその点を意識し、前を向いて発言したり、身振り手振りを交えたりと、プレゼンテーションの型を体験することができたようです。また、「聞き手が理解できる英語」を意識して原稿を作ったことで、プレゼンテーションでは相手を意識することが大切だということもできました。1年間英語を学習し、最後にプレゼンテーションを行うことで、1年間の学びが生徒の自信につながったようでした。

今回の「英語でプレゼンテーシ

ョン」のように「Learn in English(英語で学ぶ)」を実践できるプロジェクトを、今後も積極的に進めていこうと思います。



THINK ACT LEARN
in English
CULTURE CHANGE PEACE
FUTURE CHALLENGE TRUST OPINION
UNDERSTAND KINDNESS SAVE IMPROVE TIME
FRIENDSHIP GIVE NATURE CREATIVE BETTER UNITY
EDUCATION LOVE PERSONALITY RESPECT VALUE EXPERIENCE DESIRE
HEART COURAGE INTEREST HAPPINESS JUSTICE BEAUTY HOPE BELIEVE CONFIDENCE
RESPECT QUALITY COURTESY SKINCARE PEACE BEHAVIOR SURVIVAL CHARITY HONOR HONESTY SERVICE

Doshisha English Department Vision

芸術鑑賞

女子中学校・高等学校教諭（総務部） 谷口美都子

本校の芸術鑑賞は、隔年で音楽鑑賞と演劇鑑賞を行っております。音楽鑑賞は音楽科の担当で、京都コンサートホールで京都市交響楽団の演奏を聴きます。演劇鑑賞は総務部の担当で、近年では、南座での歌舞伎鑑賞教室、芸優座の「アंकルトムの小屋の灯りに」、劇団四季の「ライオンキング」等を鑑賞しました。そして今年度は、6月に宝塚歌劇の花組公演を鑑賞しました。

演劇鑑賞の企画は、前年度から準備を始めます。本当にたくさん劇団が勧誘に来られ、パンフレットを送ってこられますが、演劇の好みは音楽以上に大きく分かれるので、選定が難しいところですが、宝塚歌劇は好きで何度も見ている生徒がいる一方で、これまで見る機会がなかったという生徒も大勢います。宝塚は京都からはやや遠いですが、関西を代表する文化の一つである宝塚歌劇を一度くらいは見る機会があってもいいのでは

というところで、今回の企画となりました。

当日はお天気にも恵まれ、現地集合で11時公演を鑑賞しました。各学年担任会にはJR・阪急電車に分かれて乗車してもらい、また宝塚駅から劇場までの道にも教員を配置し、大きな混乱なく集合できました。座席は1階席の後方と2階全席の部分貸切で、古代日本を舞台にしたお芝居「邪馬台国の風」と、レビュー「Sante!!」の2本立てを鑑賞しました。

お芝居では、幻想的なストーリー展開のみならず、大掛かりな舞台装置や豪華な衣装に引き込まれました。ショーでは華やかで迫力のあるダンスや歌が繰り広げられ、途中客席降りもあり、大いに盛り上がりました。

芸術鑑賞としては初めての宝塚歌劇は、生徒からも概ね好評で、生徒・教員とも夢の空間で楽しいひと時を過ごすことができました。



幕間休憩中の2階席からのようす



宝塚大劇場の建物外観

全国高等学校テニス大会 出場！

香里中学校・高等学校教諭 吉良山智博

テニスインターハイ出場をかけた「大阪高等学校春季テニス大会」個人戦が2016年4月、大阪府蜻蛉池公園で開催されました。シングルスでは堀口さんが準優勝、松崎さんが第3位に入賞、ダブルスでは堀口・松崎さんペアが優勝し、シングルスダブルスともに、念願であったインターハイへの出場権を勝ち取ることができました。全国大会までの道のりは長く、高校1、2年生のときは、惜しくもあと少しの所で敗れ、悔しい思いをしてきました。その悔しさをばねに、チーム全体の力を高めることを中心とし、一つ一つの試合に向けて、クラブの雰囲気や練習の質など、どうすれば高められるか部員全体で考え取り組んできました。二人の頑張りはもちろんのこと、周りのテニス部員にも支えられ、日々努力を重ねてきた結果、インターハイ出場という成績を残すことができました。

8月5日～6日、島根県松江市



にて「全国高等学校総合体育大会テニス競技大会」が開催されました。シングルスダブルスともに途中で敗退しました。インターハイという大きな舞台での試合を終え、自信もついてきたようで、後日、8月中旬に開催された全日本ジュニアテニス選手権ダブルスに堀口・松崎さんペアが出場し、ベスト8に入賞しました。



クラブとテニスを通じて、部員たちにとって、人生で大切なものをたくさん得たことだと思えます。また、周りの人たちへも大きな影響と感動を与えてくれました。先輩たちが築き上げてきたものを引き継いで、今も選手たちは練習に励んでいます。

羽ばたけ！小さな国際人 国際交流の歩み

小学校教諭 振本ありさ

（新島裏の足跡を辿る旅）
6年次にアーモスト・ボストンへの修学旅行を実施しています。同志社で学ぶ11歳の子どもたちは、新島裏が過ごした地で何を感じ、何を学ぶのでしょうか。

新島裏の足跡を辿る旅の準備は、開校時からリサーチと下見を重ね、現在に至ります。修学旅行は、新島が学んだアーモスト大学に主に滞在し、またハーディー氏が属した会衆派教会での礼拝に参加する機会もあり、同志社の建学の精神キリスト教主義のバックグラウンドを学ぶ旅でもあります。

小学校は2006年に一貫教育の小学校として開校し、当時の小学生在現在、大学で学んでいます。小学校での多国籍の先生との授業、大学からの留学生との交流授業等、



小さな6年生の国際人だった頃を覚えているでしょうか。また修学旅行はどのような思い出として残っているのでしょうか。大きくなった大学生の国際人たちに尋ねてみたいものです。

（広がる国際交流）

アメリカに加え、2010年からオーストラリア・ヴェイクトリア州の私立セント・ジョセフ小学校、2012年から台湾・台東大学付属小学校と交流を続け、協定校の締結を行いました。今年の夏休みは、立石フアンドの支援で、立石ジュニアスカラーの6年代表が3週間、短期留学。秋にはオーストラリアから5、6年生20名が来校、学校生活とホームステイを体験する予定です。また冬には本校児童が台東を訪問し、台湾原住民族について学びながら学校生活とホームステイを体験する予定です。

また2015年から京都市内にある京都国際フランス学園と交流を始め、フランス語と英語を交え、

ユニークな交流をしています。また英語科と宗教科との連携で交流を続けるフィリピン・ミンダナオ島とモンゴル・ウランバートルにある施設には物資支援での繋がりをもち、この春、フィリピンのミンダナオ子ども図書館から施設の生徒たちが訪問し、出会いが実現しました。



小さな国際人たちが建学の精神を受け継ぎ、今後、幅広い視野を持つて、世界へ羽ばたいてほしいと願っています。

同志社幼稚園創立120周年 記念式・祝会を開催

幼稚園教諭 遠藤稚絵

本年6月24日（土）をもって、同志社幼稚園は創立120周年を迎え、同日、寒梅館ハーディーホールにて、「同志社幼稚園創立120周年記念式・祝会」を執り行いました。

幼稚園は、同志社創立者・新島裏の教育方針に共鳴したアメリカの宣教師、M・F・デントン夫人の篤い想いによって、1897年（明治30年）、「出町幼稚園」として開園しました。その歩みは平坦でなく、当時は「キリスト教理念に基づく幼児教育」に対する市民の関心が薄かったこともあり、園児減少、経営難に見舞われながら、アメリカからの援助や同志社女子部同窓会、幼稚園母の会等の支援を受けるなどして存続しました。園名も「今出川幼稚園」「同志社幼稚園（1947年）」という変遷を辿りながら、今日に至ります。

記念式は礼拝に始まり、八田英二総長・理事長の式辞（女子大学長・加賀裕郎先生が代読）をいただいた後、山田啓二京都府知事と

門川大作京都市長のご臨席を賜り祝辞を頂戴いたしました。会場には、ご来賓をはじめ、卒園生・在園生とその保護者、後援会会員・協賛の方々等、400名を超える方々にご参加いただきました。小学生から年代を超えた懐かしい卒園生が一堂に会し、厳かな中にもアットホームな幼稚園らしい式となりました。

祝会では、本園卒園生である茂山千作氏、七五三氏、茂氏による記念の狂言「蝸牛」を披露していただきました。その後、スライド「120年のあゆみ」では、貴重な歴史的資料を通して、開園間もない小さな園舎と数名の園児の写真に感慨深く見入ったり、時代を超えても変わらない園児の笑顔には、現在の園児の姿を重ね合わせる参加者の姿がありました。式の最後は、120周年を記念して制作した「記念愛唱歌」3曲を、会場がひとつになって合唱しました。

わたしはぶどうの木 あなたがたはその枝である。（ヨハネによ

る福音書15：5）

聖書にあるように、記念式では、これまで幼稚園にご協力・ご支援いただいた方々、卒園生、保護者との心のつながりを改めて感じました。この記念式を幼稚園の新たな第一歩として、これからも神様に守られ、そしてすべての人とながら、子ども達の健やかな成長を願い、心豊かに愛される幼稚園でありたいと思います。

